

第13回 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会要録

- 【日 時】 平成30年4月23日(月) 午後7時00分～8時05分
- 【場 所】 武蔵野市役所 8階 811会議室
- 【出席委員】 阿部迪子 岡内歩美 荻野芳明 加藤慎次郎
齋藤尚志 迫田洋平 白石ケイ子 田口 誠 竹下 登
西上原節子 能勢方子 花俣延博 濱中洋子
平岡直樹 前田美和子 茂木 勉 (敬称略)
- 【事務局】 クリーンセンター所長、ごみ総合対策課減量企画係長 他
- 【欠 席】 今木仁恵 山本信之
- 【傍 聴】 なし
- 【配布資料】
資料1 ごみ収集見直し検討中間とりまとめ(案)

1 開 会

2 議題

(1) 中間とりまとめ(案)について

【事務局】 資料1について説明。

【委員長】 事務局の説明を受けて、ご意見やご質問等はあるか。

【委員】 パブリックコメントで市民の意見を募るとするのは、具体的にはどのようにするのか教えて欲しい。

【事務局】 進め方としては、6月1日号の市報に意見募集の記事を掲載する。意見募集期間は6月中旬頃までと考えている。

【委員】 パブリックコメントは、市報を読む方のみが対象になるのか。

【事務局】 基本的なパブリックコメントの広報のやり方は、ホームページへの公開と市報の掲載になってしまうため、これらを読む方が対象となってしまう。市政センターやコミセン、図書館、市役所等に資料を置くことで目に留まることはあると思う。

【委員】 一般市民が初めて資料を読んで、具体的な意見が集まるものかと危惧してしまう。

【事務局】 資料を初めて見た市民からの意見は集まり難いと思われるが、5月から6月にかけて、クリーンむさしのを推進する会の地域集会在開催される際に会場へ

出向き、広報をすることで市民の意見を増やしていくようにしたい。

【委員】 「見直しの体系」の図について、店頭回収・自主回収を行政収集の補完的役割として位置付けるというのは、金銭的なことか。また、新聞販売店の自主回収に対する市の力の入れ方はどのような感じか。前回の委員会で、古紙・古布の回収は雨天時の問題から週1回にすると説明を聞いたが、集団回収と行政回収の関係性を考えると、2週間に1回の収集にしてはどうか。

【委員】 店頭回収の補完的役割については、市の取り組みとしては顕彰制度から始めるものである。金銭的なものは、集団回収の見直しを通じた中で考えていくべきである。中国の廃プラスチックの輸入停止により既存の店頭回収の枠組みが変化している。現段階では、まずは顕彰制度をもって市の制度として始めるのがよいのではないかと考える。集団回収と古紙の行政収集との兼ね合いから言うと、自治会や町内会がない武蔵野市のコミュニティの在り方により、集団回収が行われていない地域もあるため、サービス量の偏りに繋がってしまう。そのため、集団回収を行っているので、行政収集を減らすとは言い難い。集団回収の在り方が、行政収集のコスト低減に資するものではなく、行政収集プラス、集団回収の補助金が出されているように捉えられてもおかしくない。行政収集の回数を減らすことは、難しい。古紙の収集頻度を減らすことは、雨天の影響による収集量の増減の中が非常に大きくなるものであり、事業者のとしては、平準化の逆行することにもつながる。よって現段階で古紙については、現状の週1回とならざるを得ない。古紙の収集に関して、当初は品目の細分化をすることで、使用する車両台数の削減につながると思われたが、雨天時に排出機会が限られてしまうことから、収集回数を減らすことは難しいと考えた。

【委員】 以前の資料の中に、古紙・古布は60%の積荷で運搬されているとあるが、この部分の検討はされたのか。

【委員】 第2回の委員会で使用した「武蔵野市における行政収集の現状」の資料であるが、曜日ごとの車両台数と中間処理施設までの往復回数、平均車両積載量を示したものであった。平均車両積載割合が、重量比ベースであるか、容積ベースなのかで変わってしまう。ダンボールと新聞紙を比較すると、車両積載の重さや積み込み易さの違いによって異なってしまう。事業者の経営の側面を見た場合、人と車両を遊ばせることはない。合理的に運行した結果の数値であると考えている。

【委員】 若い方の新聞の利用は少なくなり、逆に宅配便の利用が多くなると思われるので、ダンボールや雑紙などが増加していくと思われるが、行政としてはどのように考えているのか。

【事務局】 今後は新聞が減少し、通販利用により段ボールが増加すると思われる。その

他プラスチックやペットボトルも増加傾向である。ペットボトルは軽量化により、重量はそれほどの増加にはならない。びんは微減、缶は変化なしである。武蔵野市の人口は、今後も増加していくと考えられるため、ダンボールやペットボトル、その他プラスチックも増加すると思われる。

- 【委員長】 「見直しの体系」の図についてご意見やご質問はあるか。
初めて見る方は、説明文がないため理解が難しいと思われる。
- 【委員】 中間とりまとめを受けて、委員会としての最後のとりまとめを行う。委員会の最終的な報告は、コストや環境負荷の内容などの詳細な部分を表していく。中間とりまとめは、広く市民に知ってもらうためにシンプルでわかりやすい表現にしておく方がよい。
- 【委員長】 「見直しの方向性」について、どこが重要な部分であるかが分かり難いと思う。パブリックコメントで多くの意見を頂きたいのであれば、見直しの方向性の項目だけを前面に出しては如何だろうか。
- 【事務局】 デザインとしては、見やすい位置に配置するようにしたい。
- 【委員長】 パブリックコメントについて市報で見た市民は、どんな形の取り扱いになるのか。
- 【事務局】 メールと郵送で意見を寄せて頂くことになる。
- 【委員長】 隔週化に関しての意見を広く頂いた方がよいと思うので、その部分を目立つようにしてはどうか。
- 【委員】 平準化や収集頻度の見直しについて、最も市民に見て頂きたい部分を冒頭に示してはどうか。
- 【委員】 言葉の使い方が分かり難くしている。見直しの考え方が多くなり過ぎて理解し難くしている。伝えたいことは、地区割りの変更と、資源物の隔週化であるので、今回の変更点を箇条書きにしてはどうか。「見直しの体系」の図は、今までは市民団体だけを支援していたものから、事業者も支援をすることが、市民に伝わればよいと思う。「見直しの狙いと効果」の図は、線の多さがよりわかり難くしている。市民が意見をされる際に、注目しなければいけないところが伝わり難い。言葉の使いと簡潔さの変更が必要ではないか。
- 【委員】 冒頭に結論を箇条書きにして、それ以降は説明にしてはどうか。
- 【委員】 今の意見に賛成。市民に一番影響がある部分を結論として示していただいた方がよいと思う。隔週化と平準化の2点をしっかりと伝えて、その後に説明をしていけばよいと思う。
- 【副委員長】 市民委員会のとりまとめはこういうもので崩せないと思うが、多くの委員の意見のように、結論を先に述べて、市民に分からないことでも多くの意見をお寄せくださいますとする方が、広く色々なことが伝わってくるのではないか。
- 【事務局】 結論を冒頭に入れ込んでいくようにする。平準化、隔週化についてを1ペー

ジ目に示したい。集団回収については検討したい。「見直しの体系」の図については、説明がないため分かり難いので削除する。「今回の見直しの方向性」というフレーズは「今回の変更点」に修正をしていく。

6月1日号の市報に掲載するためには、修正した資料を5月中旬には決定したい。

【委員】 基本的な内容については承認いただけるのであれば、わかりやすい表現となるよう事務局と委員長、副委員長で修正作業をする。その後の流れは、公表前にはあらかじめ資料を郵送し、委員のご確認を頂くことにするのはどうか。

【各委員】 (異議なし)

【委員長】 それではそのように取り扱う。

【委員】 市報に掲載する場合、ごみに関心がない市民にとって、理解しにくくならないように用語についての説明文を示す気遣いが必要である。

【事務局】 市報に掲載する場合は、スペースが限られているため用語説明は具体的には入れ込めないが、資料については用語についての補足説明を入れていくようにしたい。

【委員】 この委員会では、資源ごみについて主として議論をしてきたものであるため、「目的・経緯」の部分に、その旨を加筆すべき。また、「資源物」という表現をしているが、条例や制度的な行政的用語として「資源ごみ」に修正をした方が良い。

【事務局】 タイトルの「ごみ収集見直し検討中間とりまとめ」も分かり難いため変更について考えていく。最終報告書の名前と中間とりまとめの整合性などを踏まえて修正していく。

(2) その他

【事務局】 今後のスケジュールについての説明。

意見の取りまとめについては、7月上旬開催の委員会で行い、報告書に向けた委員会を7月下旬に開催する予定になる。その後、市長への答申と議会への報告をする。委員会の方向性を受けて、その後は市としての平成31年度の見直しに向けたスケジュールになっていく。委員会の開催としてはあと2回になる。7月上旬と、7月末または8月初旬の予定になる。

【委員】 クリーンむさしのを推進する会の地域集会で、市民の意見を募るとのことだが、市の職員が説明に来るのか。

【事務局】 まずはこの件を、クリーンむさしのを推進する会の会長に相談した後、支部の説明会に参加をしていく。